

2000年付近の極運動異常について

Anomalous behaviour of the Polar Motion around 2000

関口 直甫[1]

Naosuke Sekiguchi[1]

[1] なし

[1] none

極運動異常(Anomalous behaviour of the Polar Motion)とは、2～3年程度の期間、極運動半径が0.1秒角程度に小さくなり、運動周期がChandler周期から偏る現象の事である。この現象は1927年付近で起こったが、1845年付近でも起こったことが知られている。筆者は1992年にこの現象を研究し、この現象は1週間程度の時間尺度の励起が重要な役目を果たすこと、またこの時、周期はChandler周期より大きくなることも、小さくなることも可能であることを示した。

最近1999年から2000年にかけて、この現象が起こった。極運動周期は約500日に近くなった。Chandler周期より長くなるむきに変化したのは、初めて観測された事である。また1週間尺度で起こった励起は、高精度のIERS観測によって観測可能となったが、極運動異常との関連は明瞭に示されている。